

日本体育・スポーツ経営学会
「大学スポーツのマネジメント」研究プロジェクトメンバーの募集

1. テーマ

「大学スポーツのマネジメント」

2. 趣旨

スポーツ庁は、5.5兆円程度（2015）のスポーツ産業の規模を2025年までに約3倍の15兆円に引き上げるという目標を掲げている。政府が公表した「ニッポン一億総活躍プラン」には、前出の目標値を含むスポーツ産業の成長戦略が盛り込まれており、大学スポーツの産業化はその有望な分野の1つとして注目を集めている。先に公表された「第2期スポーツ基本計画」にもそうした思惑は色濃く反映しているとみてよいだろう。こうした状況のなか、大学スポーツがかつてないほどの注目を集めている。文部科学省は「大学スポーツの振興に関する検討会議」を設置し、産業化に向けた具体的な取り組みを始めているが、日本版NCAAの創設をはじめとする大学スポーツのビジネス化には多くの課題があるという指摘もある。本プロジェクト研究では、大学スポーツのマネジメントを主題とし、以下に示す2つのサブテーマを設定する。一つは、上述の大学スポーツの産業化をめぐる功罪についてである。すでにみたように、大学スポーツの産業化が期待される背景には、明らかに経済政策的な意図や期待が存在しているが、このことはともすると大学教育の枠組からの逸脱やスポーツの過度な手段化を助長することにもつながりかねない。本プロジェクト研究は、体育・スポーツ経営学の立場からその功罪について議論する場としたい。もう一つのテーマは、同じ大学スポーツでも一般的な（体育会に所属していない）学生のスポーツ環境についてである。現在、20～30代をはじめとする若い世代の運動・スポーツ離れが指摘されているが、大学生のスポーツライフがその後のスポーツとの関わり方を左右することは想像に難くない。いわゆるスポーツ系サークルに所属して活動する学生も多数存在するなか、そうした学生ならびにサークルの活動実態等については体育・スポーツ経営の立場から十分に検討されてきたとはいえない。こうした現状に鑑み、本プロジェクト研究ではスポーツ系サークルの活動実態および活動環境について実証データをもとに検討することをめざす。

そして、上記2つの課題は、一見相矛盾する。大学スポーツの産業化とさらなる高度化は、大学スポーツイベントと学生アスリートの商品価値を高めるため、競技施設を独占し、商品価値をもつアスリートを少数精鋭化させるに違いない。このことは結果的に、一般の学生のスポーツ環境をますます貧困化しかねない。そこで本プロジェクトでは、大学スポーツの高度化（産業化）と大衆化（普及）の双方が調和的に発展する方向性を検討したい。

この他にも、大学スポーツをめぐるっては、大学のスポーツを通じた地域貢献、大学体育のカリキュラム・マネジメント等多岐にわたる。そこで、具体的な研究課題の設定及び研究計画・方法については、プロジェクトメンバーが決まり次第、メンバーの意向をふまえて速やかに検討する予定である。

3. 企画提案者

川崎 登志喜（玉川大学）、作野 誠一（早稲田大学）、清水 紀宏（筑波大学）

4. 募集要領

本研究プロジェクトへの参加を希望する方は、下記内容を記してメールにて応募してください。

- (1) 氏名
- (2) 所属先
- (3) 連絡先メールアドレス
- (4) 希望する研究内容

【提出先メールアドレスおよび募集締め切りについて】

- ・ メールアドレス : jimukyoku@jsmpes.jp (日本体育・スポーツ経営学会事務局)
- ・ 募集〆切 : 2017年9月22日(金)